

平成 25 年度技術者研修会の報告

2014 年 2 月 4 日

表記研修会が、1 月 24 日（金）に札幌市の「かでの 2・7」で開かれました。

今年のテーマは、「地すべり活動度評価手法マニュアル（案）について」でした。参加者は 31 名で、そのうち 20 才代の方は 4 割弱でした。

まず、「地すべり地形判読」と題して、当協会技術アドバイザーの石井が講演し、次いで、道立総合研究機構地質研究所の石丸 聡氏が「地すべり活動度評価手法マニュアル（案）について」と題して講演しました。

そのあとは、用意された教材を使って実際に地すべり地形を判読し、「地すべり活動度評価チェックリスト」を使って地すべり活動度の評価を行いました。この実習では、石丸氏のほかに横田 寛氏と中村 研氏が指導に当たりました。

この地すべり評価手法は、空中写真の判読技術によって評価点が異なります。どのくらい正確に地すべり地形を読み取ることが出来るかが試されます。

まず、地すべり地形の外形を正確に読み取る必要があります。これが意外と難しく、特に末端がどの位置にあるかが大きな問題となります。「地すべり末端が河川攻撃斜面」となっている場合、最も評価点が高くなります。

また、地すべり地形の発達過程を頭に入れておく必要があります。地すべり移動土塊内の亀裂や段差が明瞭に見える場合は、地すべり発達の初期段階で活動度は高くなります。

地すべり移動土塊の傾斜も大きな要素です。これについては、「地理院地図」で簡単に距離を測ることができるので、手法上の問題はありません。

この評価手法の優れているところは、北海道内の地すべりであれば空中写真判読だけで活動度の評価ができることです。例えば、同一路線で、どの箇所を優先的に対策する必要があるかの判断には大変有効です。

今後、大いに活用されることが期待できます。

以下に、当日の写真を掲載します。



開会の挨拶をする当協会の渡辺彰彦 副理事長



司会の星野敦司氏と講師の面々（右の3名）



講演する石丸 聡氏



研修会場の様子



実習の様子：グループの各テーブルに実体鏡を置いたほか、各自に簡易実体鏡を用意しました。



閉会の挨拶をする今 秀俊 当協会理事：簡易実体鏡の自作方法を披露しました。

(以上)